**Q**　地域住民から届く要望への対応について、参考になることを教えてください。

**A**　地域住民からの要望の中で最も多かったのが、通学マナー、登下校の安全に関わることでした。通学路が狭い上、多人数の生徒が一時に集中するため、登下校指導にも限界がありました。

そんな中、最寄りのバス停付近で店舗を開かれている住民から、バス停付近に生徒があふれ、通行の邪魔になっており、営業の妨害にもなっているという厳しい意見をいただきました。何年にもわたり言ってきたのに少しも改善されず、むしろ状態が悪くなっている、安全や仕事に関わることであり看過できない、ということでした。

すぐに教頭に詳しい事情を聞きに行ってもらい、謝罪するとともに、翌日、生徒指導主事に実情を把握してもらいました。何十人もの生徒が狭い場所に集まり、苦情ももっともなことであるとの報告を受けました。

何ができるか相談したところ、歩道に整列させることしかないだろうということになり、さっそく、生徒指導部で整列の仕方や指導の人員の手配を計画し、実行に移しました。放課後に他の様々な指導や会議等があることは当然ですが、しばらくの間、最優先で取り組みました。

１、２週間で、整列してバスを待つことが定着し、要望はなくなりましたが、やはり根本的な解決にはなりません。そこで出された意見が、別のバス路線を利用する案でした。学校近所を通るもう一つのバス路線を、下校時に合わせ運行してもらい、生徒を分散しようという訳です。

ここでも、教頭、生徒指導主事が動き、バス営業所との繰り返しの折衝、近隣住民に理解を得る話し合い等を重ね、翌春のバスのダイヤ改正に合わせ、新たに下校のルートを確保することができました。こうして長年の懸案が一つの解決をみました。

正直、私自身は、当初、解決が難しいことであると半ばあきらめぎみでしたが、職員の素早い対応、具体的行動があり、そして何より、建設的な解決策を見出し実行に移せたことに助けられた事案でした。あらためて、問題解決のための話合い、知恵の出合い、実行力、協力体制の大切さを強く感じました。

| | |
|---|---|
| 校種 | 高等学校 |